

重 誓 偈

我建超世願 必至無上道

斯願不滿足 誓不成正覺(1)

我於無量劫 不爲大施主

普濟諸貧苦 誓不成正覺(2)

saci mi imi viśiṣṭa naivarūpā

『もしも、実に、[わたくしが] 覺りを得たときに、このような

vara-praṇidhāna siyā khu bodhi-prāpte,

すぐれた、これらの最勝の誓願が、わたくしにないならば、

ma ahu siya narendra sattva-sāro,

人中の王よ、わたくしは十力を持ち、

daśa-bala-dhāri atulya-dakṣiṇīyaḥ.(1)

無比の供養さるべき者、生ける者の最上者とはなるまい。

saci mi siya na kṣetra evarūpaṃ

もしも、わたくしの国土において、このように、

bahu-adhanāna prabhūta divya-citraṃ,

多くの貧しい者たちに、天の輝ける豊かな [財] がなければ、

sukhi na nara kareya duḥkha-prāpto,

苦しみに落ちいった人を幸福な者になしえないならば、

ma ahu siyā ratano narāṇa rājā.(2)

わたくしは、人々の中の宝石の [ごとき] 王とはなるまい。

我至成佛道 名聲超十方

究竟靡所聞 誓不成正覺(3)

離欲深正念 淨慧修梵行

志求無上道 爲諸天人師(4)

saci mi upagatasya bodhi-maṇḍam,

もしも、わたくしが覺りの座に近づいたとき、

daśa-diśi na vraji nāmadheyu kṣipraṃ

〔わたくしの〕名が、すみやかに十方の、

pr̥thu bahava ananta-buddha-kṣetrām,

広大にして多数の、無限の諸仏国土に達しないならば、

ma ahu siyā bala-prāptu loka-nātha.(3)

わたくしは力を得た世間の主とはなるまい。

saci khu ahu rameya kāma-bhogām,

もしも、実に、わたくしが無比・吉祥なる覺りに近づきながら、

smṛti-matīyā gatiyā vihīnu santah,

憶念と思慮と了解とを捨てて、

atula-śiva sameyamāṇa bodhi,

愛欲の享受を喜ぶようであるならば、

ma ahu siyā bala-prāptu śāstu loke.(4)

わたくしは、世間において力を得た師とはなるまい。

神力演大光 普照無際土

消除三垢冥 廣濟衆厄難(5)

開彼智慧眼 滅此昏盲闇

閉塞諸惡道 通達善趣門(6)

vipula-prabha atulyananta nāthā

主よ、[わたくしの] 無比・無限の広大な光明は、

diśi vidiśi sphuri sarva-buddha-kṣetrām,

[四] 方 [四] 維の一切の仏国土を満たし、

rāga praśami sarva-doṣa-mohām,

貪欲と一切の瞋恚・愚癡とを鎮め、

naraka-gatismi praśāmi dhūma-ketuṃ.(5)

地獄界における火を鎮めるであろう。

jāniya su-ruciraṃ viśāla-netraṃ,

よく輝ける大きな眼を開いて、

vidhuniya sarva-narāṇa andhakāram,

一切の人々の冥闇を破り、

apaniya suna akṣaṇān aśeṣān,

不運な生まれの者たちを残りなく取り除いて、

upanayi svarga-pathān ananta-tejā.(6)

[わたくしは] 無限の威光あるもろもろの天界への道に [人々を] 導くであろう。

功祚成満足 威耀朗十方

日月戰重暉 天光隱不現(7)

爲衆開法藏 廣施功德寶

常於大衆中 說法師子吼(8)

na tapati nabha candra-sūrya-ābhā

月と太陽の光は天空に輝かず、

maṇi-gaṇa agni prabhā va devatānām,

宝珠の集まりや、火や、神々の光明も [輝かない]。

abhibhavati narendra-ābha sarvān

清浄な、過去の行を實踐して、

purima-carim pariśuddha ācaritvā.(7)

人中の王の光は一切 [の光] に打ち勝つ。

puruṣa-varu nidhāna duḥkhitānām,

人中の最勝者にして、苦惱する者たちの宝 [となる]、

diśi vidiśāsu na asti evarūpā.

そのような者は、四 [方] 四 [維] にいない。

kuśala-śata-sahasra sarva pūrṇā,

すべて十万の善を満たして、

parṣa-gato nadi buddha-siṃhanādam.(8)

[わたくしは] 会衆の中に入って、仏の獅子吼をなすであろう。

供養一切佛 具足衆徳本

願慧悉成満 得爲三界雄(9)

如佛無礙智 通達靡不照

願我功慧力 等此最勝尊(10)

purima-jina svayambhu satkaritvā,

過去の勝者・自存者たちを恭敬して、

vrata-tapa-koṭi caritva aprameyām,

無量千万の禁誓と苦行とを実践し、

pravara-vara sameṣi jñāna-skandhaṃ,

誓願の力を満たした、生ける者の最上者として、

praṇidhi-balaṃ paripūrṇa sattva-sāro.(9)

[わたくしは] 最高・最勝の智のあつまりを求めるであろう。

yatha bhagavan asaṅga-jñāna-darśī,

世尊よ、あたかも、とらわれのない智をもって見る

trividha prajānati saṃskṛtaṃ narendrah.

人中の王が、有為を三種に知っておられるように、

aham api siy' atulya-dakṣiṇīyo,

わたくしもまた、無比の供養さるべき者、

viduḥ pravaro nara-nāyako narāṇām.(10)

最高の智者、人々の導師となるであろう。

斯願若剋果 大千應感動

虚空諸天人 當雨珍妙華(11)

saci mi ayu narendra evarūpā

人中の王よ。もしも、わたくしが覺りを得て、

praṇidhi samṛdhyati bodhi prāpuṇitvā,

このような誓願が成就するならば、

calatu ayu sahasra-lokadhātū

この〔大〕千世界は震動せよ。

kusumu pravaraṣa nabhātu deva-saṃghā.(11)

神々の群れよ、天空から花を雨ふらせよ』〔と〕。

pracalita vasudhā pravaraṣi puṣpāḥ,

大地は震動し、もろもろの花が雨ふった。

tūrya-śatā gagane 'tha sampraṇeduḥ.

そのとき、百の樂器が空中に鳴りひびき、

divya-rucira-candanasya cūrṇā,

天の妙なる梅檀の抹香が撒かれた。

abhikiri caiva bhaviṣyi loki buddha, iti.(12)

そして、<〔そなたは〕世間で仏となるであろう>〔と声があった〕。